

第4 火山の活動状況及び被害状況

桜島の火山活動

(1) 平成30年の概況

桜島では、南岳山頂火口を中心に噴火活動が活発となった。噴火は479回(平成29年は406回)発生し、このうち爆発的噴火が246回と前年(平成29年は81回)より約20%増加した。年間の爆発的噴火回数が200回を超えたのは平成11年以来、19年ぶり。火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)が継続した。

南岳山頂火口では、年間で噴火が475回発生し、このうち爆発的噴火は246回。6月16日07時19分の爆発的噴火で、噴煙が火口縁上4,700mまで上がり、火砕流が南岳山頂火口の南西側へ約1,300m流下した。火砕流を観測したのは平成29年3月25日の噴火以来。またこの日、鹿児島市、日置市、南さつま市及び枕崎市で降灰が確認された。7月16日15時38分の爆発的噴火では、噴煙が火口縁上4,600mまで上がり、大きな噴石が4合目(南岳山頂火口より1,300~1,700m)まで達した。4合目まで達したのは、平成24年7月24日以来。また、火口では夜間に、高感度の監視カメラで火映が時々観測された。

昭和火口では、噴火が4回(平成29年は394回)発生し、4月3日以降、噴火は観測されていない。爆発的噴火はなかった(平成29年は77回)。4月1日16時11分の噴火は火砕流が昭和火口の東側へ約800m流下。昭和火口で火砕流を観測したのは平成28年6月3日以来。

火山性地震は、年回数は3,811回で前年(平成29年は7,295回)より減少した。震源は、主に南岳直下の深さ0~4km付近に分布。桜島東部の深さ5~8km付近及び桜島南西部の深さ7~12km付近にも時々分布した。

火山性微動の継続時間の年合計は81時間15分で、前年(平成29年は289時間40分)に比べ減少した。

桜島島内の傾斜計による観測では、顕著な山体膨張を示す変動はみられなかった。一部の噴火の発生前に山体のわずかな膨張と、発生直後にわずかな収縮が観測された程度。

GNSS連続観測では、始良カルデラの地下深部の膨張を示す基線の伸びは平成30年3月頃から停滞しているが、長期にわたり供給されたマグマが蓄積した状態が継続していると考えられる。

降灰状況は、鹿児島地方気象台で年合計1,218g/m²(降灰日数153日)の降灰を観測し、月別では6月が最も多く月合計803g/m²だった。また、鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した平成30年の火山灰の総噴出量は、約191万トン(平成29年は約91万トン)。

火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は、概ね4,000トン以下/日で推移したが、5月22日の現地調査で南岳山頂火口からごく小規模な噴火が続く状況での観測により、6,200トン/日と非常に多くなった。2月12日の現地調査でも4,500トン/日を観測するなど、前年(平成29年は100~1,900トン)に比べて次第に増加した。

南岳山頂火口及び昭和火口の状況は、赤外熱映像装置による観測や10月22日に行った上空からの観測では、これまでと同様に昭和火口近傍及び南岳東側山腹に熱異常域が観測されたが、特段の変化はなかった。

(2) 各月の経過

【1月～2月】

南岳山頂火口では、噴火が1月(12回)、2月(7回)で、そのうち爆発的噴火が1月(4回)、2月(3回)発生した。1月10日21時02分の爆発的噴火では、大きな噴石が8合目(南岳山頂火口より500～700m)まで達した。噴煙は天候不良で不明。1月18日10時24分の噴火ではやや多量の噴煙が火口縁上2,500mまで上がった。2月19日08時20分の爆発的噴火では、噴煙は火口縁上1,500mまで上がり、雲に入った。2月27日00時31分の爆発的噴火では、大きな噴石が8合目まで達した。

昭和火口は、噴火が1月(1回)で、爆発的噴火はなかった。2月は、噴火は観測なし。1月8日03時59分に噴火が発生し、大きな噴石が5合目まで達した。噴煙は天候不良のため不明。

火山性地震の月回数は、1月(209回)、2月(328回)で、震源は南岳山頂直下の深さ0～2km付近や桜島の東部の深さ7km付近に分布した。

火山性微動の継続時間は、1月は3時間42分で、2月は27分で次第に減少した。

火山ガス(二酸化硫黄)の1日あたり放出量は、1月16日及び30日の現地調査では1,300～2,600トンと多く、2月9日及び23日では600～700トンとやや少なくなった。

降灰状況は、鹿児島地方気象台で1月は3g/m²(降灰日数3日)、2月は0g/m²(降灰日数3日)観測した。鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、1月は約22万トン、2月は4万トンだった。

【3～9月】

桜島では、活発な噴火活動が継続した。

南岳山頂火口では、噴火が3月(44回)、4月(66回)、5月(96回)、6月(35回)、7月(29回)、8月(64回)、9月(44回)で、そのうち爆発的噴火が3月(17回)、4月(50回)、5月(48回)、6月(13回)、7月(16回)、8月(37回)、9月(22回)発生した。

3月26日15時41分の爆発的噴火で、噴煙は火口縁上3,400mまで上がった。3月10日23時12分の爆発的噴火では、大きな噴石が5合目まで達した。4月3日16時38分の爆発的噴火では、噴煙は火口縁上3,400mまで上がった。4月9日、22日、26日の爆発的噴火では、大きな噴石が5合目まで達した。南岳山頂火口で爆発的噴火の月回数が50回に達したのは、平成12年1月以来。5月24日19時37分の爆発的噴火で、噴煙は火口縁上3,200mまで上がり、大きな噴石は最大で5合目まで達した。6月16日07時19分の爆発的噴火では、多量の噴煙が火口縁上4,700mまで上がり、大きな噴石が6合目まで飛散し、火砕流が南西

側へ約1,300m流下した。桜島で噴煙が4,000m以上に上がったのは、平成29年5月2日の昭和火口での噴火以来。鹿児島市、日置市、南さつま市、南九州市及び枕崎市で降灰が確認された。7月16日15時38分の爆発的噴火では、多量の噴煙が火口縁上4,600mまで上がり、大きな噴石が4合目まで達した。南岳山頂火口の噴火で、大きな噴石が4合目まで飛散したのは、平成24年7月24日以来。8月29日14時09分の噴火では、噴煙が火口縁上2,800mまで上がり、大きな噴石が最大で5合目まで達した。9月2日16時21分の爆発的噴火では、噴煙は火口縁上2,300mまで上がり、大きな噴石が最大で6合目まで達した。また、南岳山頂火口では夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測した。

昭和火口では、噴火が4月(3回)だけで、その他の月は観測されなかった。4月1日16時11分の噴火ではごく小規模な火砕流が東側へ800m流下し、大きな噴石が最大で6合目まで達した。噴煙は最高で火口縁上1,700mまで上がり、雲に入った。火砕流が発生したのは平成28年6月3日以来。

火山性地震の月回数は、3月(463回)、4月(271回)、5月(434回)、6月(338回)、7月(285回)、8月(309回)、9月(213回)だった。震源は南岳山頂直下の深さ1~4km付近、桜島の東側の深さ5~9km付近及び桜島の南西側の深さ7kmに分布。

火山性微動の継続時間は、3月は74時間19分、4月は132時間10分、5月は266時間40分、6月は57時間50分、7月は100時間6分、8月は28時間48分、9月は25時間36分だった。

火山ガス(二酸化硫黄)の1日あたり放出量は、3月23日は1,300トン、4月3日と19日は1,400~1,500トン。5月22日は6,200トンと非常に多くなった。5月25日は2,400トン。6月1日、12日、28日は1,700~2,700トン。7月17日と26日は1,300~2,100トン。8月2日、20日、27日は1,500~3,300トン。9月5日、19日は1,500~2,200トンと多い状態が続いた。

降灰の状況は、鹿児島地方気象台で、3月は20g/m²(降灰日数8日)、4月は39g/m²(降灰日数17日)、5月は173g/m²(降灰日数15日)、6月は803g/m²(降灰日数17日)、7月は62g/m²(降灰日数17日)、8月は79g/m²(降灰日数23日)、9月は19g/m²(降灰日数10日)を観測した。

鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、3月は約17万トン、4月は約24万トン、5月は約38万トン、6月は約26万トン、7月は約12万トン、8月は約11万トン、9月は約8万トンだった。

【10月~12月】

南岳山頂火口では、引き続き爆発的噴火を含む噴火が時々発生した。

南岳山頂火口では、噴火が10月(8回)、11月(14回)、12月(56回)で、そのうち爆発的噴火が11月(2回)、12月(34回)発生。

10月23日10時00分の噴火では噴煙は火口縁上1,600mまで上がった。11月14日00時43分の爆発的噴火では多量の噴煙が火口縁上4,000m以上まで上がり、大きな噴石が4合目

まで達した。12月24日11時27分の爆発的噴火では、やや多量の噴煙が火口縁上3,000mまで上がり、大きな噴石が5合目まで達した。

また、同火口では夜間に高感度の監視カメラで火映を時々観測した。

昭和火口では、噴火は観測されなかった。

10月10日に実施した赤外熱映像装置による観測では、昭和火口近傍及び南岳南東側山腹で、これまでと同様に熱異常域が観測されたが、特段の変化はなかった。

10月22日に上空からの観測を実施したが、昭和火口周辺や火口底の熱異常域は、これまでと比較して特段の変化はなかった。また、昭和火口内に留まる程度の噴気が見られ、火口底は火山灰や噴石が堆積し、閉塞していた。南岳山頂火口では、噴煙に覆われて火口内の状況は確認でなかったが、灰褐色や青白色の噴煙が上がっていた。

火山性地震の月回数は、10月(250回)、11月(127回)、12月(584回)と12月は増加した。震源は桜島の東側の深さ6km付近、及び桜島の南西側深さ9km付近、桜島の西側の深さ12kmに分布した。

火山性微動の継続時間は、月合計で10月は32時間56分、11月は38時間29分、12月は51時間44分と次第に増加した。

火山ガス(二酸化硫黄)の1日あたり放出量は、10月4日は3,400トン。10月1日、10日、17日、23日は400～1,000トン。11月6日、20日は1,100～1,400トン。12月12日、17日は3,600～4,500トンと非常に多くなった。

降灰状況は、鹿児島地方気象台の観測で月合計は、10月は2g/m²(降灰日数8日)、11月は8g/m²(降灰日数14日)、12月は10g/m²(降灰日数18日)だった。

鹿児島県が実施している降灰の観測データから推定した火山灰の総噴出量は、10月は約4万トン、11月が約9万トン、12月は約16万トン。

(3) 火山情報の発表状況

平成28年2月5日19時13分 火口周辺警報(噴火警戒レベル3、入山規制)の発表後、警報事項に変更なし。

霧島山の火山活動

① 新燃岳

(1) 平成30年の概況

新燃岳では、平成29年10月17日以降、平成30年2月にかけて噴火はなかったが、3月1日に噴火が再開し、3月6日に爆発的噴火が発生した。その後、噴火活動は継続したものの、3月中旬以降は噴火の間隔が次第に長くなり、6月28日以降、噴火は観測されなかった。

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は、増減を繰り返し概ね多い状態で経過したが、11月中旬頃からは概ね少ない状態となった。

GNSS連続観測によると、3月6日から7日にかけて急激な収縮が観測されたが、3月中旬以降は再び伸びに変わった。霧島山の地下深くにあると考えられるマグマだまりの膨張を示す地殻変動は鈍くなったものの続いた。

火山性地震は、1月(783回)、2月(429回)、3月(5,009回)、4月(1,919回)、5月(3,011回)、6月(1,128回)、7月(666回)、8月(656回)、9月(594回)、10月(702回)、11月(190回)、12月(73回)で、年合計は15,160回だった。

火山性微動は、1月(4回)、2月(2回)、3月(79回)、4月(17回)、5月(7回)、6月(5回)、7月(12回)、8月(8回)、9月(17回)、10月(6回)、11月(0回)、12月(0回)だった。

(2) 各月の経過

【1月～2月】

1月から2月は白色噴煙が火口縁上500m以下で推移した。火山性地震は、1月は783回とやや多い状態で経過したが、2月は概ね少ない状態で経過した。火山性微動は、継続時間が短いものが1月16日から17日にかけて発生した。

1月15日・18日・31日、2月26日に実施した現地調査では、新燃岳西側斜面の割れ目付近及び割れ目の下方の噴気状態や熱異常域の分布に大きな変化は見られなかった。

火山性ガスの放出量は、1月18日に実施した現地調査では1日あたり60トン、2月2日に実施した現地調査では1日あたり90トンだった。

【3月】

3月1日11時頃に、ごく小規模な噴火が発生した(噴火は平成29年10月17日以来)。その後、火山灰を噴出する噴火は9日にかけて継続し、6日は爆発的噴火が発生した(爆発的噴火は平成23年3月1日以来)。6日に実施した上空からの観測では新燃岳火口内の東側が地下から放出された新たな溶岩で覆われていることが確認され、9日に実施した上空からの観測では蓄積された溶岩が火口の北西からわずかに流れ出ているのが確認された。

10日の爆発的噴火では火口の中心から1,800mまで大きな噴石が飛散し、噴煙が火口縁上4,500mまで上がった。25日07時35分の爆発的噴火では火口の中心から800mまで大きな噴石が飛散し、噴煙が火口縁上3,200mまで上がった。火山性ガスの放出量は、7日に34,000トンと非常に多くなったが、その後は1,000トン程度で経過した。

火山性地震は6日に520回、7日に801回と増加し、その後も1日あたり数十回から200回と多い状態が続いたが、25日以降は次第に少なくなった。火山性微動は連続または断続的に発生し、5日から8日にかけて微動の振幅が一時的に増加したが、25日以降は観測されなかった。

【4月】

5日03時31分に爆発的噴火が発生し、多量の噴煙が火口縁上5,000mまで上がり、弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口の中心から1,100mまで達した。03時45分からの数分間は噴煙量が増加し、気象衛星データの解析では噴煙が火口縁上約8,000mまで上がったとみられ、宮崎県小林市と高原町の一部で多量の降灰が確認された。6日10時38分にも噴火が発生したが、7日以降は噴火は観測されなかった。

火山性地震は、3日から5日にかけて1日あたりの回数が200回以上と多い状態が続き、9日以降は減少したものの、概ね多い状態が続いた。新燃岳直下の浅い所を震源とする低周波地震は少ない状態で経過した。火山性微動は5日から14日にかけて時々発生し、最大の継続時間は20分程度だった。5日及び11日に実施した現地調査では、火山ガスの放出量は、それぞれ1日あたり1,400トン、600トンだった。

【5月】

14日に噴火が発生し、多量の噴煙が火口縁上4,500mまで上がり、宮崎県都城市の一部で路面の白線が見えにくくなる程度のやや多量の降灰が確認された。直径7mm(最大)の小さな噴石も確認された。

新燃岳火口の北側2km付近を震源とする火山性地震は2日に増加し、3日にかけて多い状態で経過した。新燃岳火口の北側2.5km付近を震源とする火山性地震は14日以降にやや増加。火口直下を震源とする火山性地震は概ね多い状態で経過し、14日から15日は一時的に急増した。火山性微動は14日に発生するなど時々観測された。

【6月】

22日09時09分に爆発的噴火が発生し、噴煙が火口縁上2,600mまで上がった。火口の中心から1,100mまで弾道を描いて飛散する大きな噴石が確認され、宮崎県高原町、都城市、鹿児島県霧島市の新燃岳山麓の一部で微量の火山灰が観測された。同日に実施した上空からの観測では、火口内が溶岩で覆われているのが確認され、火口内の縁辺部や中央部で白色の噴気が上がっているのが確認された。27日15時34分にも噴火が発生し、噴煙が火口縁上2,200mまで上がり、宮崎県小林市、高原町、都城市、綾町、宮崎市の新燃岳の東北東方向で微量の火山灰が確認された。

新燃岳火口直下を震源とする火山性地震は概ね多い状態で経過し、17日から22日は多

い状態となった。13日と27日は継続時間が短い振幅の小さな火山性微動が発生、22日と27日には噴火に伴う微動が発生した。

【7月～12月】

期間中、噴火は観測されなかった。火口直下を震源とする火山性地震は、概ね多い状態または概ねやや多い状態で経過したが、11月中旬頃から少ない状態で経過した。火山性微動は、10月にかけて継続時間が短く振幅が小さなものが時々発生し、9月4日は継続時間が約16分と振幅がやや大きな火山性微動が発生したが、10月24日以降は火山性微動は観測されなかった。

(3) 霧島山（新燃岳）の火山情報の発表状況

平成30年3月1日16時40分 火口周辺警報 噴火警戒レベル3（入山規制）を切り替え、警戒が必要な範囲を概ね2kmから概ね3kmの範囲に拡大。

平成30年3月10日05時05分 火口周辺警報 噴火警戒レベル3（入山規制）を切り替え、警戒が必要な範囲を概ね3kmから概ね4kmの範囲に拡大。

平成30年3月15日11時00分 火口周辺警報 噴火警戒レベル3（入山規制）を切り替え、警戒が必要な範囲を概ね4kmから概ね3kmの範囲に縮小。

平成30年6月28日11時00分 火口周辺警報 噴火警戒レベル3（入山規制）から噴火警戒レベル2（火口周辺規制）に引き下げ。

② 御鉢

(1) 平成30年の概況

火口縁を越える噴煙は確認されなかった。

火山性地震は、2月9日から16日かけて一時的に増加したものの、概ね少ない状態で経過した。火山性地震の年回数は237回だった。火山性微動は2月9日に継続時間が短く振幅が小さいものが2回発生した（平成28年12月5日以来）が、2月10日以降は観測されなかった。現地調査及び上空からの観測では火口内の噴気に大きな変化は見られず、赤外熱映像装置による観測でも火口底付近の熱異常域に特段の変化は見られなかった。

平成30年2月9日に噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）から噴火警戒レベル2（火口周辺規制）に引き上げたが、3月15日に噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）に引き下げ、その後噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）が継続した。

火山性地震は、1月（10回）、2月（199回）、3月（13回）、4月（2回）、5月（1回）、6月（3回）、7月（2回）、8月（2回）、9月（0回）、10月（0回）、11月（5回）、12月（0回）と2月は火山性地震が一時的に多くなった。

火山性微動は、1月（0回）、2月（2回）、3月～12月（0回）だった。

(2) 各月の経過

【1月及び3月～12月】

火山活動に特段の変化はなかった。

【2月】

火山性地震は、震源は御鉢の南西側とみられる地震が9日に82回、14日84回に発生した。9日14時44分と14時54分には継続時間が短い火山性微動が発生。同日に実施した現地調査では大きな変化は確認できなかったが、これまでと同様に火口底や火口壁南側、火口壁西側で熱異常域を観測した。

(3) 霧島山（御鉢）の火山情報の発表状況

平成30年2月9日14時40分 火口周辺警報 噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）から噴火警戒レベル2（火口周辺規制）に引き上げ。

平成30年3月15日11時00分 火口周辺警報 噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）に引き下げ。

③ えびの高原（硫黄山）

(1) 平成30年の概況

えびの高原（硫黄山）周辺では、4月19日15時34分頃から火山性微動が発生し、15時39分頃に硫黄山の南側でごく小規模な噴火が発生した。4月27日以降、噴火は観測されなかったが、活発な噴気や熱泥噴出活動が続いた。

火山性地震は、ごく小規模のものを含め2月19日から増加し、4月19日にかけて概ね多い状態で経過した。4月19日の噴火後は概ね少ない状態だったが、5月下旬以降は概ねやや多い状態で経過した。

GNSS連続観測では、3月頃から硫黄山近傍の基線で山体の膨張を示す変動がみられていたが、4月19日以降はいったん収縮、その後、6月上旬から再び山体の膨張を示す変動がみられた。

火山性地震は、1月（300回）、2月（590回）、3月（756回）、4月（709回）、5月（118回）、6月（292回）、7月（875回）、8月（815回）、9月（551回）、10月（936回）、11月（822回）、12月（526回）だった。

火山性微動は、1月（1回）、2月（0回）、3月（0回）、4月（3回）、5月（0回）、6月（1回）、7月～12月（0回）だった。

(2) 各月の経過

【1月】

硫黄山付近では19日02時30分頃に火山性微動が発生し（平成28年12月12日以来）、硫黄山付近がわずかに隆起する一時的な傾斜変動が確認された。19日は火山性地震も一時的に増加した。20日以降、火山性地震は少ない状態で経過し、火山性微動は観測されなかった。

【2月】

15日から硫黄山付近では浅い場所を震源とする低周波地震が時々発生。19日からごく微小な地震を含む火山性地震が増加し、21日以降は振幅が大きな火山性地震も時々発生した。火山性微動は観測されなかった。

【3月】

硫黄山付近では、火山性地震が概ね多い状態で経過し、浅い場所を震源とする低周波地震が時々発生した。火山性微動は観測されなかった。

【4月】

えびの高原の硫黄山では、19日15時34分頃より火山性微動が発生し、15時39分頃に硫黄山の南側で噴火が発生。最高の噴煙高度は500mで、火孔から200～300m程度まで大きな噴石が飛散した。26日18時15分頃には硫黄山の西側500m付近で一時的に火山灰が含まれる程度の噴火が発生。乳白色の噴煙が200m以上に上がり、この噴火は同日18時26分頃まで続いた。27日以降、噴火は発生しなかった。

火山性地震は、ごく微小な地震を含め概ね多い状態だったが、20日以降は概ね少ない状態で経過した。浅い所を震源とする低周波地震は時々発生した。19日、20日、24日に火山性微動が発生したが、25日以降は観測されなかった。

【5月～12月】

期間中、噴火は観測されなかった。硫黄山周辺の沢では4月30日から5月31日の観測で白濁した泥水が確認。6月11日の観測では透明になっていたが、7月10日には再び白濁していることが確認された。火山性地震は、ごく微小な地震を含め5月下旬から概ねやや多い状態で経過し、7月23日から28日は多い状態となった。期間中、浅い所を震源とする低周波地震が時々発生した。

硫黄山の南側の噴気地帯では、噴気が300m以上に上がるなど、活発な噴気と熱泥噴出活動が続いた。硫黄山の西側500m付近では、5月下旬以降は噴気活動が弱まっていたが、9月以降はやや活発な状態となった。

(3) えびの高原（硫黄山）周辺の火山情報の発表状況

平成30年2月20日11時40分 火口周辺警報 噴火警戒レベル1（活火山であることに留意）から噴火警戒レベル2（火口周辺規制）に引き上げ。

平成30年4月19日15時55分 火口周辺警報 噴火警戒レベル2（火口周辺規制）から噴火警戒レベル3（入山規制）に引き上げ。

平成30年5月1日14時00分 火口周辺警報 噴火警戒レベル3（入山規制）から噴火警戒レベル2（火口周辺規制）に引き下げ。

火山名 霧島山（新燃岳） 噴火警報（火口周辺）

平成30年3月1日16時40分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

＊＊（見出し）＊＊

<霧島山（新燃岳）の火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切替
>

新燃岳では、低周波地震が増加し火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も急増しています。警戒が必要な範囲を新燃岳火口周辺の概ね2 kmから概ね3 kmに拡大します。

<噴火警戒レベル3（入山規制）が継続>

＊＊（本文）＊＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

新燃岳では、本日（1日）08時頃から浅い場所を震源とする低周波地震が増加しています。また、火山性微動は本日08時15分頃から継続して発生しています。

本日実施した現地調査では、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が1日あたり5500トン（前回2月2日、90トン）と急増しました。火山ガスの放出量が急増したのは、2017年10月の噴火以来です。

GNSS連続観測では、2017年7月頃から霧島山を挟む基線の伸びが継続しています。このことから、霧島山の深い場所でマグマの蓄積が続いていると考えられます。

新燃岳では、今後、更に活動が活発になる可能性があります。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で警戒をしてください。

宮崎県：小林市、高原町

鹿児島県：霧島市

3. 防災上の警戒事項等

弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から概ね3 kmまで、火砕流が概ね2 kmまで達する可能性があります。そのため、火口から概ね3 kmの範囲では警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

爆発的噴火に伴う大きな空振によって窓ガラスが割れるなどのおそれがあるため注意してください。

＊ ＊ （参考：噴火警戒レベルの説明） ＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 霧島山（新燃岳） 噴火警報（火口周辺）

平成30年3月10日05時05分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊＊（見出し）＊＊

<霧島山（新燃岳）の火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切替
>

新燃岳では、本日（10日）爆発的噴火が発生し、弾道を描いて飛散する大きな噴石が1800mまで飛散しました。今後、火山活動がさらに活発化するおそれがあるため、警戒が必要な範囲を新燃岳火口周辺の概ね3kmから概ね4kmに拡大します。

<噴火警戒レベル3（入山規制）が継続>

＊＊（本文）＊＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

新燃岳では、噴火活動が活発化しています。本日（10日）01時54分と04時27分の爆発的噴火では弾道を描いて飛散する大きな噴石が1800mまで飛散しました。噴煙は最高で火口縁上4500mまで上がりました。

地殻変動観測では、昨日（9日）18時頃から新燃岳方向が隆起する傾斜変動がみられています。

火山性地震は多い状態が続いており、引き続き、前24時間で200回を超えています。浅いところを震源とする振幅の大きな低周波地震も引き続き発生しています。

現在、新燃岳の火口内は溶岩で覆われ、火口の北西側の一部では、高温の溶岩が現在も流出しています。

今後、更に活動が活発になる可能性があります。新燃岳火口から概ね4kmの範囲では弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。新燃岳火口から概ね2kmの範囲では流下する火砕流に警戒してください。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で警戒をしてください。

宮崎県：都城市、小林市、えびの市、高原町

鹿児島県：霧島市

3. 防災上の警戒事項等

弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から概ね4 kmまで、火砕流が概ね2 kmまで達する可能性があります。そのため、火口から概ね4 kmの範囲では警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

2011年と同様に爆発的噴火に伴う大きな空振による窓ガラスの破損の可能性がありますので注意してください。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が、非常に多い状態となることもあり、風下側では流下する火山ガスに注意するとともに、地元自治体等が発表する火山ガスの情報にも留意してください。

また、降灰が続いていることから降雨時の土石流にも注意してください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

火山名 霧島山（新燃岳） 噴火警報（火口周辺）

平成30年3月15日11時00分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

＊＊（見出し）＊＊

<霧島山（新燃岳）の火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を切替
>

新燃岳では、爆発的噴火が断続的に発生していますが、3月11日以降、さらなる噴火活動の活発化は認められないことから、警戒が必要な範囲を新燃岳火口周辺の概ね4kmから概ね3kmに縮小します。

<噴火警戒レベル3（入山規制）が継続>

＊＊（本文）＊＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

新燃岳では、3月6日から爆発的噴火が断続的に発生し、3月10日には噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から1800mまで達しましたが、さらなる噴火活動の活発化は認められていません。

高千穂河原観測点の傾斜計で、9日18時頃から新燃岳方向がわずかに隆起する傾斜変動がみられていましたが、12日頃から停滞しています。

低周波地震は、10日まで1日あたり100回以上と非常に多い状態となっていました。11日から減少しています。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、7日に1日あたり34000トンと非常に多くなりましたが、その後は1000トン程度で経過しています。

衛星からの観測では、9日には溶岩の噴出は概ね停止したとみられます。

これらのことから、新燃岳火口から3kmを超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと考えられます。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で警戒をしてください。

宮崎県：小林市、高原町

鹿児島県：霧島市

以下の市町村では、特段の警戒が必要なくなりました。

宮崎県：都城市、えびの市

3. 防災上の警戒事項等

弾道を描いて飛散する大きな噴石が火口から概ね3 kmまで、火砕流が概ね2 kmまで達する可能性があります。そのため、火口から概ね3 kmの範囲では警戒してください。

風下側では火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

2011年と同様に爆発的噴火に伴う大きな空振による窓ガラスの破損の可能性がありますので注意してください。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が、非常に多い状態となることもあり、風下側では流下する火山ガスに注意するとともに、地元自治体等が発表する火山ガスの情報にも留意してください。

なお、今後の降灰状況次第では、降雨時に土石流が発生する可能性がありますので留意してください。

また、地元自治体等が行う立入規制等にも留意してください。

＊ ＊ （参考：噴火警戒レベルの説明） ＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制

火山名 霧島山（新燃岳） 噴火警報（火口周辺）

平成30年6月28日11時00分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊ ＊（見出し） ＊ ＊

<霧島山（新燃岳）に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を
発表>

新燃岳では、引き続き小規模な噴火の可能性がありますので、新燃岳火口
から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う大きな噴石及び火砕流に警戒してく
ださい。

<噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引下げ>

＊ ＊（本 文） ＊ ＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

新燃岳では、4月以降も噴火が時々発生していますが、大きな噴石の飛散
は火口の中心から1100mまで達したのが最大でした。

G N S S連続観測では、霧島山を挟む基線で、3月中旬以降、霧島山の深
い場所でのマグマの蓄積を示すと考えられる基線の伸びがみられていますが
、5月上旬から一部の基線でその伸びは鈍化しています。新燃岳近傍の傾斜
計では、6月に入ってから山体膨張を示す顕著な変化は観測されていません
。

火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、3月中旬以降1日あたり数百から1
000トン程度で経過していましたが、6月1日に1日あたり80トンまで
減少しています。

このように新燃岳火口へのマグマの供給は低下したものとみられ、2 km
を超える範囲に影響を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと考えられ
ます。一方、新燃岳火口の浅部では活発な地震活動が続いていることなどか
ら、引き続き、弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね2 k
mまで、火砕流が概ね1 kmまで達する噴火の可能性があります。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で警戒をしてください。

宮崎県 : 小林市

鹿児島県 : 霧島市

以下の市町村では、特段の警戒が必要なくなりました。

宮崎県 : 高原町

3. 防災上の警戒事項等

弾道を描いて飛散する大きな噴石が新燃岳火口から概ね2 kmまで、火砕流が概ね1 kmまで達する可能性があります。そのため、新燃岳火口から概ね2 kmの範囲では警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等が行う立入規制等にも留意してください。また、地元自治体等が発表する火山ガスの情報にも留意してください。

なお、今後の降灰状況次第では、降雨時に土石流が発生する可能性がありますので留意してください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明） ＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等。

火山名 霧島山（御鉢） 噴火警報（火口周辺）

平成30年2月9日14時40分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊ ＊（見出し） ＊ ＊

<霧島山（御鉢）に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表>

霧島山（御鉢）で小規模な噴火が発生するおそれがあります。御鉢火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

<噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ>

＊ ＊（本文） ＊ ＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

霧島山（御鉢）で、本日（9日）08時頃から火山性地震が増加し、11時頃からさらに増加しています。

現在、遠望観測やその他の観測データに、特段の変化は認められません。

霧島山（御鉢）では、火山活動が高まってきており、今後、小規模な噴火が発生するおそれがあります。御鉢火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で警戒をしてください。

宮崎県：都城市、小林市、高原町

鹿児島県：霧島市

3. 防災上の警戒事項等

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

噴火時には、風下側で火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明） ＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮

者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 霧島山（御鉢） 噴火予報：警報解除

平成30年3月15日11時00分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

＊＊（見出し）＊＊

<霧島山（御鉢）に噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）：警報解除を発表>

火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなりました。

<噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ>

＊＊（本文）＊＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

御鉢では、火山性地震が2月9日から16日にかけて一時的に増加しましたが、それ以降は1日あたり数回以下と少ない状態で経過しています。火山性微動は2月10日以降、観測されていません。

傾斜計による地殻変動観測等、その他の観測データにも御鉢の活動の高まりを示す特段の変化はみられていません。

また、3月14日に九州地方整備局の協力により実施した上空からの観測でも、火口内及び火口周辺の状況に特段の変化は認められませんでした。

これらのことから、御鉢では火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなりました。

これまで定期的に発表していた火山の状況に関する解説情報は終了します。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、特段の警戒が必要なくなりました。

宮崎県：都城市、小林市、高原町

鹿児島県：霧島市

3. 防災上の警戒事項等

活火山であることから、火口内でごく少量の火山灰等を噴出する規模の小さな現象が突発的に発生する可能性がありますので注意してください。

地元自治体等が行う立入規制等に留意してください。

＊＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 噴火警報（火口周辺）
平成30年2月20日11時40分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

＊＊（見出し）＊＊

<霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を公表>

硫黄山で小規模な噴火が発生するおそれがあります。硫黄山火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

<噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ>

＊＊（本文）＊＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

硫黄山では、昨日（19日）からごく微小な地震を含む火山性地震が増加しています。昨日は17回、本日（20日）11時まで18回発生しています。15日以降、浅い所を震源とする低周波地震が時々発生しています。

硫黄山西麓の湧水では、2017年11月以降、高温の火山ガスに由来する成分の顕著な増加が観測されています。

GNSS連続観測では、2017年7月頃から霧島山を挟む基線の伸びが継続しています。このことから、霧島山の深い場所でマグマの蓄積が続いていると考えられます。

えびの高原（硫黄山）周辺では、活発な噴気活動や熱異常域の拡大及び温度の高まりが認められるなど、火山活動が高まっており、小規模な噴火が発生するおそれがあります。えびの高原の硫黄山から概ね1kmの範囲では、小規模な噴火に警戒してください。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で警戒をしてください。

宮崎県：えびの市

鹿児島県：霧島市

3. 防災上の警戒事項等

えびの高原の硫黄山から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。風下側では、降灰及び風の影響を受ける小さな噴石（火山れき）に注意してください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明） ＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 噴火警報（火口周辺）
平成30年4月19日15時55分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

＊ ＊（見出し）＊ ＊

<霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を発表>

えびの高原の硫黄山から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

<噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から3（入山規制）に引上げ>

＊ ＊（本文）＊ ＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

えびの高原の硫黄山で、本日（19日）15時39分頃に噴火が発生しました。この噴火に伴い、硫黄山火口周辺で噴石の飛散を確認しました。

今後さらに火山活動が活発になる可能性があります。えびの高原の硫黄山から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で警戒をしてください。

宮崎県：小林市、えびの市

鹿児島県：霧島市

3. 防災上の警戒事項等

えびの高原の硫黄山から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺） 噴火警報（火口周辺）
平成30年5月1日14時00分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

＊ ＊（見出し） ＊ ＊

<霧島山（えびの高原（硫黄山）周辺）に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を公表>

えびの高原（硫黄山）周辺では、引き続き小規模な噴火の可能性がありますので、えびの高原の硫黄山から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

<噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引下げ>

＊ ＊（本文） ＊ ＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

えびの高原の硫黄山では、4月19日に硫黄山の南側で噴火が発生し、火口から200から300m程度まで大きな噴石が飛散しました。4月20日には硫黄山の西側約500m付近で新たに噴気が上がり、4月26日には一時的に火山灰が含まれる噴煙が上る程度の噴火が発生しました。その後、噴火は発生していませんが、活発な噴気活動は続いており、4月30日に実施した現地調査でも確認しています。

火山性地震は、4月20日以降概ね少ない状態で経過しています。火山性微動は、4月25日以降観測されていません。

地殻変動観測で、硫黄山付近及びその西側にみられていた隆起は、ほぼ収まっています。

硫黄山火口では、4月19日と同程度あるいはやや大きな噴火が発生して、大きな噴石を飛散させるおそれがあります。また、硫黄山の西側約500m付近では、4月26日と同様な噴火により火山灰を噴出する可能性があります。

以上のことから、警戒の必要な範囲は硫黄山から概ね1 kmの範囲と考えられます。この範囲では、引き続き小規模な噴火に警戒してください。

なお、GNSS連続観測では、2017年7月頃から霧島山を挟む基線での伸びが継続していましたが、3月6日から7日にかけて霧島山を挟む基線で急激な収縮が観測されました。その後、再び伸びに転じています。このことから、霧島山の深い場所で再びマグマが蓄積されている可能性があります。

。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で警戒をしてください。

宮崎県 : えびの市

鹿児島県 : 霧島市

以下の市町村では、特段の警戒が必要なくなりました。

宮崎県 : 小林市

3. 防災上の警戒事項等

えびの高原の硫黄山から概ね1 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石（火山れき）が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

薩摩硫黄島の火山活動

(1) 平成 30 年の概況

薩摩硫黄島では、3月19日と22日に一時的に火山性地震が多い状態となった。3月19日に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベル1(活火山であることに留意)からレベル2(火口周辺規制)に引き上げた。その後は減少し、4月27日に噴火警戒レベル2(火口周辺規制)からレベル1(活火山であることに留意)に引き下げた。4月以降は噴煙活動に大きな変化はなく、火山活動は静穏な状態で経過した。

硫黄岳山頂火口では、白色の噴煙が概ね火口縁上1,000m以下(最高は1,800m)の高さで経過し、同火口では2月9日から夜間に高感度カメラで火映を時々観測した。

火山性地震は、3月に500回と一時的に増加し、それ以外は概ね200~300回で推移した。3月16日には継続時間が短く振幅の小さい火山性微動を観測した。

3月から5月にかけて実施した現地調査では、火山ガス(二酸化硫黄)の放出量は1日あたり300~1,500トンで、赤外熱映像装置による観測で硫黄岳の北側から西側の山腹で噴気と熱異常域を観測したが、噴気活動や熱異常域の状況に特段の変化はなかった。12月に実施した上空からの観測では、山腹から噴気が上がっているのを観測したが、噴気活動に特段の変化は確認されなかった。地殻変動の状況は、GNSS連続観測では火山活動によると考えられる変化は認められなかった。

火山性地震の月回数は1月(252回)、2月(167回)、3月(500回)、4月(208回)、5月(154回)、6月(233回)、7月(332回)、8月(289回)、9月(266回)、10月(243回)、11月(257回)、12月(279回)だった。火山性微動の月回数は、1月~2月(0回)、3月(1回)、4月~12月(0回)で、3月16日に継続時間が短く振幅の小さい火山性微動を観測した(2017年7月1日以来)が、その他の月は観測されなかった。

(2) 各月の経過

【1月~12月】

火山性地震は少ない状態で経過したが、3月は19日と22日に93回発生するなど一時的に増加した。このため3月19日11時45分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベル1(活火山であることに留意)からレベル2(火口周辺規制)に引き上げた。その後、火山性地震は減少し、4月27日14時00分に噴火予報を発表し、噴火警戒レベル2(火口周辺規制)からレベル1(活火山であることに留意)に引き下げた。

(3) 火山情報の発表状況

平成30年3月19日11時45分 火口周辺警報発表。噴火警戒レベル1(活火山であることに留意)からレベル2(火口周辺規制)に引き上げ。

平成30年4月27日14時00分 噴火予報。噴火警戒レベル2(火口周辺規制)からレベル1(活火山であることに留意)に引き下げ。

火山名 薩摩硫黄島 噴火警報（火口周辺）

平成30年3月19日11時45分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊＊（見出し）＊＊

<薩摩硫黄島に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表>

火口から概ね1kmの範囲では、小規模な噴火に警戒してください。

<噴火警戒レベルを1（活火山であることに留意）から2（火口周辺規制）に引上げ>

＊＊（本文）＊＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

薩摩硫黄島では、本日（19日）03時頃から振幅の小さな火山性地震が増加し、00時から11時30分まで51回と多い状態が継続しています。

高感度の監視カメラでは2月以降時々火映現象が観測されており、熱活動が高まっている可能性があります。

薩摩硫黄島では火山活動が高まっており、火口から概ね1kmの範囲に大きな噴石が飛散する程度の小規模な噴火が発生する可能性があります。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。

鹿児島県：三島村

3. 防災上の警戒事項等

火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石に警戒してください。

風下側では降灰、風の影響を受ける小さな噴石及び火山ガスに注意してください。

＊＊（参考：噴火警戒レベルの説明）＊＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 薩摩硫黄島 噴火予報：警報解除

平成30年4月27日14時00分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊＊（見出し）＊＊

<薩摩硫黄島に噴火予報（噴火警戒レベル1、活火山であることに留意）：警報解除を公表>

薩摩硫黄島では地震活動が低下し、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなりました。

<噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から1（活火山であることに留意）に引下げ>

＊＊（本文）＊＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

薩摩硫黄島では、火山性地震が3月19日及び22日に93回発生するなど一時的に増加しましたが、その後は減少し、日回数は概ね10回以下で経過しました。3月16日に振幅が小さく継続時間が短い火山性微動が発生しましたが、その後は観測されていません。

4月25日及び26日に実施した現地調査では、前回（3月24日及び25日）と比較して、わずかな熱異常域の広がりを確認しましたが、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は1日あたり300トン（前回3月24日、600トン）でやや少ない状態でした。

GNSS連続観測などその他の観測データでは、火山活動に伴う特段の変化は認められませんでした。

以上のように、薩摩硫黄島の火山活動は低下しており、火口周辺に影響を及ぼす噴火の兆候は認められなくなりました。

なお、定期的に発表していた火山の状況に関する解説情報は終了します。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、入山規制などの特段の警戒が必要なくなりました。

鹿児島県：三島村

3. 防災上の警戒事項等

活火山であることから、火口内では火山灰等が噴出する可能性があります

。

また、火口付近では火山ガスに注意してください。なお、地元自治体を実施している立入規制等に留意してください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明） ＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

口永良部島の火山活動

(1) 平成30年の概況

口永良部島では、平成27年6月19日のごく小規模な噴火以降、噴火は発生していなかったが、平成30年10月21日に新岳火口でごく小規模な噴火が発生し、その後12月にかけて同程度の噴火が断続的に発生した。特に12月18日の噴火では、新岳火口から火砕流が約1,000m流れ、大きな噴石が700mまで飛散するなど平成30年で最も大きな噴火となった。12月19日に実施した上空からの赤外熱映像装置による観測では、新岳火口の西側約1,000m及び東側500m付近まで火砕流の痕跡が確認された。同日に実施した現地調査及び聞き取り調査では屋久島町永田の一部で路面が見えにくくなる程のやや多量の降灰が確認された。火山性ガスの放出量は、7月までは1日あたり60～500トンだったが、8月以降は1日あたり100～1,700トンと増加し、1,000トン以上が時々観測されるなど、不安定な状態が続いた。火山性ガスの放出量がやや多い状態で続く中で、8月15日には新たなマグマの貫入の可能性を示唆する火山性地震が発生するなど、火山活動の活発化が確認されていた。新岳火口付近のごく浅いところを震源とする火山性地震は、8月上旬に一時的に増加したあと、10月中頃から再度増加し、10月21日以降は多発したことから、火山性地震の年回数は5,434回と昨年(1,527回)より増加した。火山性微動は、主に10月以降の噴火の際に多く発生した。

平成28年6月14日以降、噴火警報レベル3(入山規制)が続いていたが、平成30年4月18日にレベル2(火口周辺規制)に引き下げた。その後、8月15日に噴火警戒レベル2(火口周辺規制)からレベル4(避難準備)に引き上げ、新岳火口から概ね3kmの範囲の居住地域へ避難などの厳重な警戒を呼び掛けた。なお、同月29日にレベル3(入山規制)に引き下げ、その後、警報事項に変更はなかった。

火山性地震は、1月(295回)、2月(295回)、3月(376回)、4月(298回)、5月(270回)、6月(342回)、7月(235回)、8月(267回)、9月(114回)、10月(453回)、11月(1,588回)、12月(901回)で、年合計は5,434回だった。

(2) 各月の経過

【1月～7月】

期間中、噴火は発生しなかった。山麓から実施した現地調査では火口周辺の地形や噴気の状態に特段の変化は確認されず、赤外熱映像装置による観測でも新岳火口の西側割れ目付近の熱異常域の温度は低下した状態が続き、特段の変化は見られなかった。火山性地震は概ね多い状態が続いた。火山性微動はしばらく観測されていなかったが、7月21日と31日に振幅が小さく継続時間が短い火山性微動が発生した(平成28年9月27日以来)。

【8月】

山麓から実施した現地調査では、火口周辺の地形や噴気の状態に特段の変化は確認できなかったが、新岳火口からは青白色の火山性ガスの噴出が確認。16日及び23日の観測で

は火山性ガスの臭気が確認された。17日及び27日に実施した上空からの観測では、新岳火口内の状況は噴煙のため不明だったが、赤外熱映像装置による観測では新岳火口及び西側割れ目付近に熱異常域が確認された。17日の観測では火山ガスによる臭気も確認された。新岳火口付近のごく浅い場所を震源とする火山性地震は、8日と10日に一時的に増加したものの、11日以降は減少した。一方、15日には新岳の西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震が増加し、地震の規模は最大でマグニチュード1.9（暫定値）と、やや大きな地震が観測された。このため15日10時30分に噴火警報を発表し、噴火警戒レベル2（火口周辺規制）をレベル4（避難準備）に引き上げ、新岳火口から概ね3kmの範囲の居住地域では、噴火に伴う弾道を描いで飛散する大きな隕石及び火砕流に厳重な警戒（避難準備等の対応）を呼びかけた。ただ、16日以降は新岳の西側山麓付近のやや深い場所を震源とする火山性地震は観測されず、火山ガスの放出量増加も確認されなかった。山麓及び上空からの観測でも特段の変化は見られず、火山活動の更なる高まりは確認されなかった。このため29日10時00分に火口周辺警報を発表し、噴火警戒レベル4（避難準備）からレベル3（入山規制）に引き下げた。

【9月】

新岳火口付近のごく浅い場所を震源とする火山性地震は、24日から26日にかけて一時的に増加したが、新岳の西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震は観測されなかった。火山性地震は少ない状態で経過した。24日には振幅が小さく短い継続時間の火山性微動が発生した。19日に山麓から実施した現地調査では、火口周辺の地形や噴気の状況に大きな変化は見られなかったが、20日及び21日の観測では明らかに臭気を感じる程度の火山ガスの放出が確認された。

【10月】

10月21日18時31分に新岳火口でごく小規模な噴火が発生した（噴火は平成27年6月19日以来）。噴煙は灰白色で火口縁上100mまで上がった。その後も断続的に噴火し、最高で火口縁上900mの灰色の噴煙が観測された。これらの噴火に伴う噴石は確認されなかった。19日には高感度監視カメラで微弱な火映が観測され、29日にも火映が観測された（火映の観測は平成27年5月28日以来）。新岳火口付近のごく浅い場所を震源とする火山性地震は、7日まで少ない状態だったが、その後は増加し、19日以降は多い状態が続いた。西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震は観測されなかった。

【11月】

新岳火口では断続的に噴火が発生し、11月25日には灰色の噴煙が火口縁上2,100mまで上がった。現地調査では集落でわずかな降灰が時々観測された。高感度監視カメラでは、6日から17日にかけて夜間に火映を時々観測したが、18日以降は見られなくなった。

新岳火口付近のごく浅い場所を震源とする火山性地震は、20日に125回発生するなど多い状態で経過、火山性微動も多い状態で経過した。新岳の西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震は観測されなかった。

【12月】

新岳火口では断続的に噴火が発生していたが、噴火は12月13日17時30分頃に停止し

た。その後、しばらく噴火が停止したが、18日16時37分に再び噴火が発生し、火砕流が火口から西側へ約1,000m流れるとともに、大きな噴石が新岳火口から700mまで飛散した。気象衛星やレーダー観測により噴煙が海拔高度約5,000mに達したことが確認され、18日20時55分には火柱が火口縁上200mまで上がった。噴火は、ごく小規模な状態で20日17時30分頃まで続いた。19日に実施した上空からの赤外熱映像装置による観測では、新岳火口の西側約1,000m及び東側約500mまで火砕流の痕跡が確認され、現地調査及び聞き取り調査では屋久島町永田の一部で路面が見えにくくなる程のやや多量の降灰を確認するなど、屋久島町及び南種子町の一部で降灰が確認された。28日22時09分にも噴火が発生。噴煙が火口縁上1,000mまで上がり、大きな噴石が火口から500mまで飛散し、屋久島の一部でわずかな降灰が確認された。新岳火口付近のごく浅い場所を震源とする火山性地震は、18日と28日の噴火前後に増加。本村東観測点（新岳の北西約2.8km）に設置している空震計では18日に29.0Pa、28日に16.1Paの空震が観測された。火山性微動は主に噴火に伴い発生した。新岳西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震は観測されなかった。

(3) 火山情報の発表状況

平成30年4月18日11時00分 火口周辺警報発表。噴火警戒レベル3(入山規制)からレベル2(火口周辺規制)に引き下げ。

平成30年8月15日10時30分 噴火警報発表。噴火警戒レベル2(火口周辺規制)からレベル4(避難準備)に引き上げ。

平成30年8月29日10時00分 火口周辺警報発表。噴火警戒レベル4(避難準備)からレベル3(入山規制)に引き下げ。

火山名 口永良部島 噴火警報（火口周辺）

平成30年4月18日11時00分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

＊ ＊（見出し） ＊ ＊

<口永良部島に火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）を発表>

引き続き小規模な噴火の可能性がありますので、新岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、新岳火口から西側の概ね2kmの範囲では、火砕流に警戒してください。

<噴火警戒レベルを3（入山規制）から2（火口周辺規制）に引下げ>

＊ ＊（本文） ＊ ＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

口永良部島では、2015年6月19日のごく小規模な噴火以降、噴火は発生していません。新岳火口の西側割れ目付近には依然として熱異常域が存在するものの、温度は低い状態が続いています。

また、新岳火口を挟むGNSSの基線では、2016年1月頃から緩やかな縮み傾向が見られています。

一方、火山性地震は概ね多い状態で経過しており、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量も2014年8月の噴火前の水準には低下しておらず、火山活動がやや高まった状態となっています。引き続き小規模な噴火の可能性があります。

これらのことから、新岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒が必要です。また、新岳火口から西側の概ね2kmの範囲では、火砕流に警戒が必要です。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。

鹿児島県：屋久島町

3. 防災上の警戒事項等

新岳火口から概ね1kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、新岳火口から西側の概ね2kmの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけではなく小さな噴石が風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等が行う立入規制等にも留意してください。

＊ ＊ （参考：噴火警戒レベルの説明） ＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 口永良部島 噴火警報（居住地域）

平成30年8月15日10時30分 福岡管区気象台・鹿児島地方気象台

＊ ＊（見出し） ＊ ＊

<口永良部島に噴火警報（噴火警戒レベル4、避難準備）を発表>

新岳火口から概ね3 kmの範囲の居住地域では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に厳重な警戒（避難準備等の対応）をしてください。

<噴火警戒レベルを2（火口周辺規制）から4（避難準備）に引上げ>

＊ ＊（本文） ＊ ＊

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

口永良部島では、本日（15日）00時頃から火山性地震が増加しており、10時までで26回発生しています。これまでの火山性地震の震源は、新岳火口付近のごく浅い場所でしたが、本日の火山性地震は新岳の南西山麓付近の深さ約5 kmと推定され、地震の規模は、最大でマグニチュード1.9（速報値）とやや大きなものでした。

この火山性地震の震源は2015年5月の噴火前に発生した地震と同じ場所であると推定され、今後、火山活動が更に高まる可能性があります。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、当該居住地域で避難などの厳重な警戒をしてください

。

鹿児島県：屋久島町

3. 防災上の警戒事項等

新岳火口から概ね3 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に厳重な警戒（避難準備等の対応）をしてください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が風に流されて降るため注意してください。

＊ ＊（参考：噴火警戒レベルの説明） ＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

火山名 口永良部島 噴火警報（火口周辺）

平成30年8月29日10時00分 福岡管区气象台・鹿児島地方气象台

（見出し）

<口永良部島に火口周辺警報（噴火警戒レベル3、入山規制）を発表>

居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生する可能性は低くなったと考えられますが、新岳火口から概ね2 kmの範囲に影響を及ぼす噴火の可能性があります。

<噴火警戒レベルを4（避難準備）から3（入山規制）に引下げ>

（本文）

1. 火山活動の状況及び予報警報事項

新岳の西側山麓のやや深い場所を震源とする火山性地震が15日に増加しましたが、16日以降は観測されていません。火山ガス（二酸化硫黄）の放出量は、10日から17日にかけて1日あたり900トンから1600トンに増加しましたが、18日以降は依然として多いものの1日あたり400トンから800トンに減少しています。GNSS連続観測では、口永良部島島内の基線で顕著な変化は認められていません。

16日以降に実施した山麓及び上空からの観測では、新岳火口及び新岳火口西側割れ目付近の噴煙や熱異常域の状況に特段の変化は認められていません。

このように火山活動の更なる高まりが認められていないことから、居住地域に重大な被害を及ぼす噴火が発生する可能性が低くなったと考えられます。

一方、8月に入ってから、新岳火口付近のごく浅い場所を震源とする火山性地震が増減を繰り返し、火山ガス（二酸化硫黄）の放出量が増加するなど、火山活動が高まった状態となっていますので、新岳火口から概ね2 kmに影響を及ぼす噴火の可能性があります。

2. 対象市町村等

以下の市町村では、火口周辺で入山規制などの警戒をしてください。

鹿児島県：屋久島町

3. 防災上の警戒事項等

新岳火口から概ね2 kmの範囲では、噴火に伴う弾道を描いて飛散する大きな噴石及び火砕流に警戒してください。また、向江浜地区から新岳の南西

にかけての火口から海岸までの範囲では、火砕流に警戒してください。

風下側では、火山灰だけでなく小さな噴石が遠方まで風に流されて降るおそれがあるため注意してください。

地元自治体等の指示に従って危険な地域には立ち入らないでください。

＊ ＊ （参考：噴火警戒レベルの説明） ＊ ＊

【レベル5（避難）】：危険な居住地域からの避難等が必要。

【レベル4（避難準備）】：警戒が必要な居住地域での避難の準備、要配慮者の避難等が必要。

【レベル3（入山規制）】：登山禁止や入山規制等危険な地域への立入規制等。状況に応じて要配慮者の避難準備等。

【レベル2（火口周辺規制）】：火口周辺への立入規制等。

【レベル1（活火山であることに留意）】：状況に応じて火口内への立入規制等。

（注：避難や規制の対象地域は、地域の状況や火山活動状況により異なる）

諏訪之瀬島の火山活動

(1) 平成 30 年の概況

御岳火口では噴火が時々発生した。そのうち、爆発的噴火は 42 回と平成 29 年（32 回）と比べ増加し、噴火活動は引き続き活発な状態で経過した。噴火に伴う噴煙は概ね火口縁上 1,000m 以下で経過したが、3 月 27 日 09 時 29 分に発生した噴火では灰色の噴煙が火口縁上 2,200m の高さまで上がった。御岳火口ではほぼ年間を通して夜間に高感度カメラで火映が観測された。十島村役場諏訪之瀬島出張所によると、御岳の南南西約 4km の集落で降灰が確認された日数は 15 日間だった。

火山性地震の月回数は、1 月（A型地震:64 回 B型地震:33 回）、2 月（A型:18 回 B型:82 回）、3 月（A型:10 回 B型:241 回）、4 月（A型:10 回 B型:52 回）、5 月（A型:13 回 B型:75 回）、6 月（A型:14 回 B型:261 回）、7 月（A型:15 回 B型:7 回）、8 月（A型:148 回 B型:6 回）、9 月（A型:9 回 B型:82 回）、10 月（A型:11 回 B型:9 回）、11 月（A型:8 回 B型:106 回）、12 月（A型:5 回 B型:18 回）と各月とも少ない状態が続いた。そのうち、爆発的噴火は、1 月（0 回）、2 月（1 回）、3 月（9 回）、4 月（8 回）、5 月（2 回）、6 月（1 回）、7 月～10 月（0 回）、11 月（21 回）、12 月（0 回）だった。

(2) 各月の経過

【1 月～2 月】

御岳火口では時々噴火が発生し、2 月 3 日 07 時 51 分に爆発的噴火が発生した。1 月は爆発的噴火はなかった。噴火に伴う灰白色の噴煙の最高高度は、1 月は火口縁上 1,100m、2 月は 3 日に火口縁上 1,000m まで上がった。火口では、ほぼ期間を通して夜間に高感度カメラで火映を観測した。降灰が火口から南南西 4km の集落で 1 月 13 日・27 日・31 日、2 月 2 日・3 日に確認された。同集落で 1 月 27 日・31 日、2 月 1 日～3 日に鳴動が確認された。

火山性地震は、A 型地震・B 型地震ともに少ない状態が続いた。火山性微動は断続的に発生し、継続時間の月合計は 1 月（15 時間 30 分）、2 月（84 時間 13 分）だった。

【3 月～4 月】

御岳火口では時々噴火が発生し、爆発的噴火は 3 月に 9 回、4 月に 8 回発生した。3 月 28 日 02 時 45 分の噴火と、4 月 5 日 00 時 43 分及び 9 日 02 時 57 分の噴火では、火口周辺に飛散する大きな噴石が確認された。噴煙の最高高度は、3 月 27 日は灰色の噴煙が火口縁上 2,200m、4 月 2 日と 4 日は灰白色の噴煙が火口縁上 2,000m まで上がった。火口付近では、ほぼ期間を通して夜間に高感度カメラで火映を観測した。降灰は火口から南南西 4km の集落で 3 月は 25 日・29 日、4 月は 18 日・28 日・29 日に確認された。

火山性地震は、A 型地震・B 型地震ともに少ない状態が続いた。火山性微動は断続的に発生し、継続時間の月合計は 3 月（77 時間 29 分）、4 月（104 時間 18 分）だった。

【5 月～6 月】

御岳火口では時々噴火が発生し、爆発的噴火は 5 月に 2 回、6 月に 1 回発生した。5 月 4

日 22 時 01 分の噴火では火口周辺に飛散する大きな噴石が確認されたが、6 月 2 日 03 時 28 分に発生した爆発的噴火では天候不良で噴煙の高さは不明だった。噴煙の最高高度は、5 月 15 日に灰白色の噴煙が火口縁上 1,000m、6 月は白色の噴煙が火口縁上 900m まで上がった。火口付近では、ほぼ期間を通して夜間に高感度カメラで火映を観測した。降灰は火口から南南西 4km の集落で 5 月 14 日に確認されたが、6 月は確認されなかった。

火山性地震は、A型地震・B型地震ともに少ない状態が続いた。火山性微動は、5 月に断続的に発生し、継続時間の月合計は 34 時間 34 分で前月と比べて減少した。6 月は火山性微動が観測されなかった。

【7月～8月】

御岳火口では噴火が観測されなかった。火口付近では夜間に高感度カメラで火映を時々観測した。7月から8月は、降灰は確認されなかった。

火山性地震は、A型地震・B型地震ともに少ない状態で経過した。ただ、8月1日はA型地震が一時的に増加し、07時13分に発生したマグニチュード2.1の地震により震度1を観測した。期間中、火山性微動は観測されなかった。

【9月～10月】

御岳火口では、9月12日にごく小規模な噴火が観測された（6月2日以来）ほか、13日11時00分にも噴火が観測された。噴煙の最高高度は、9月13日の噴火で乳白色の噴煙が火口縁上1,100mまで上がった。10月は噴火は観測されなかった。期間中は夜間に高感度カメラで火映を時々観測したが、降灰は確認されなかった。

火山性地震は、A型地震・B型地震ともに少ない状態が続いた。9月は火山性微動が12日から14日にかけて概ね連続して発生したほか、21日と23日にも継続時間が短い火山性微動が発生し、継続時間の月合計は42時間10分だった。10月は火山性微動は観測されなかった。

【11月～12月】

御岳火口では時々噴火が発生し、11月は爆発的噴火が21回発生した。11月9日04時17分と11月14日22時48分の爆発的噴火では、大きな噴石が御岳火口から700mまで飛散しているのが確認された。12月は爆発的噴火はなかった。噴煙の最高高度は、11月16日と23日に灰色の噴煙が火口縁上2,000m、12月26日に灰色の噴煙が火口縁上1,800mまで上がった。火口付近では期間を通して夜間に高感度カメラで火映を観測した。火口から南南西4kmの集落では11月14日・17日・23日に降灰が確認され、20日は鳴動が確認された。12月は降灰は確認されなかった。

火山性地震の月回数は、A型地震・B型地震ともに少ない状態が続いた。11月は火山性微動が時々発生し、継続時間の月合計は18分だった。12月は火山性微動が確認されなかった。

※A型地震とは、P相やS相が明瞭で高周波成分が卓越する地震、B型地震とは、P相やS相が不明瞭で低周波成分が卓越する地震である。

※鳴動とは、火口またはその付近に音源を持つ連続的な音響で、特に火山活動に関連して

起き、時には振動を伴うこともある。

(3) 火山情報の発表状況

平成19年12月1日10時06分 火口周辺警報（噴火警戒レベル2、火口周辺規制）の発表後、警報事項に変更なし。